

## 小矢部市まちづくり研究会(第3期生)座長を終えて

私が関西地方から小矢部市に引っ越してきたのが、13年前の雪が残る季節のこと。あたり一面の雪景色、あまり聞き取れない富山弁、そしてかぶら寿司や天神様等、見たこともない食文化や風習に驚きながらも、ゆっくりと小矢部市での生活を始めたものでした。

最初の3年間は地域にも全くとけこめずに、地域青年団の活動すら参加しない自分がそこにありました。そんな私も、富山生活4年目の青年会議所入会をきっかけに、多くの市民の皆さんと交流をさせていただくようになり、そこからまちづくりの楽しさ、温かさがあることに気づき、結果的には今も様々なまちづくり活動に携わっています。

その活動の中で一貫して感じていることは、「まちづくりには間違いがない」ということでした。どのようなやり方で取り組もうとも、どのような答えが出ようとも、それは正解であり、それが方法であるということです。

そういった観点からも私達、小矢部市まちづくり研究会(第3期生)では、1班が「イベント・食」をテーマに、2班が「定住促進・PR」をテーマに「自分たちが取り組みたい事業にどんどんチャレンジしていこう」ということで、活動を展開してまいりました。結果として提出された議案は、皆様方の期待を超えるものもあったかもしれませんが、中にはそれに沿えなかったものもあったかもしれません。しかし、今回のまちづくり研究会活動を通じて私が最も重要に感じたことは、「こうして小矢部市民、そして市職員が、共に一つのまちづくりのために集まって議論や検証を重ねる協働の姿勢、これこそがこれからの市のまちづくりにとって、もっとも大切な基本になるに違いない」ということでした。結果がすぐに出ないのがまちづくりの楽しさであり、また難しさでもあります。だからこそ、その生産過程、プロセスこそが大切なのであって、アウトプットやプロダクト等、結果の産物は今の段階ではそれほど重要ではないように感じています。成功へのプロセスさえしっかりとしていれば、これから素晴らしい製品が生まれ続けていくに違いありません。そしてまた、私達まちづくり研究会第3期生にとりましても、真の力が大きく発揮されるのは、この会を終えたその時からだと思っています。

ここまで研究させた議案を、そして思いを、それぞれの各職場で、地域で、そして家庭で、更に熟成させながら取り組んでいくこと。これこそが、これからの小矢部市のまちづくりにとって、非常に重要なものになってくるのではないのでしょうか。小矢部市の中で大きな笑顔の輪が作られ、そして共に集まりながら、これからも小矢部市の協働のまちづくりが展開されていくことを切に願います。

こうして、小矢部市まちづくり研究会(第3期生)として、共に時間を過ごすことができた会員の皆様に感謝しつつ、そしてまた、こういった機会を与えていただきました小矢部市の関係各位の皆様、そしてまた、この会合に出てくる時間を与えていただきました会員それぞれの職場や、家庭の皆様にも大きな感謝を感じつつ、座長としての感謝と御礼の言葉とさせていただきます。

二年間に渡りまして、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

座長 野手 貢



## 各委員の活動を終えての感想

委員名等	感想
 <p>のて みつぐ 野手 貢 1班 座長</p>	<p>“まち研”活動を通じて また新しい仲間が増え、多くの経験を積ませていただきました。時にはみんなで“うんうん”考える時もありましたが、それも今となってはとても大切な宝物になっています。</p> <p>私個人としましては、とても頼りがいのない座長であったかと思いますが、こうして皆さんと一緒に小矢部市のまちづくりに関して考える、楽しい時間を過ごすことができたということに 大きな喜びを感じています。</p> <p>小矢部市まちづくり研究会第3期生の皆さん 本当にありがとう！</p>
 <p>あらたに 荒谷 まさこ 1班</p>	<p>名古屋から小矢部に嫁いで10年、子育てと仕事と家の事で精一杯の毎日にまち研の活動が加わりました。そして、小矢部の事を真剣に考えている人が沢山いる事を知りました。研修旅行では目指した形を実現している人達の話聞く事ができ、目指す所はどこなのかが大切だと言う事を学びました。子供やお年寄りが、安全に安心して暮らせる小矢部市になって欲しいと思います。</p>
 <p>わたなべ かつあき 渡邊 克明 1班</p>	<p>自分の意見に賛同してもらって、はじまったまちづくり研究会の活動。賛同して頂いた皆さんには大変感謝しております。ふるさとを想う熱い仲間と共に活動できたのが、何よりの財産になりました。まだまだ志半ばではありますが、今後も継続的に活動をしていきたいと思えます。2年間ありがとうございました。</p>
 <p>いわた ちなみ 岩田 千波 1班 副座長</p>	<p>「食」をテーマにした、地域おこしが注目されており、各地においてB級ご当地グルメが全国区の人気を博し、多くの観光客を集めています。</p> <p>1班での研究テーマは「食とイベント」。研究を通して、小矢部市の現状や課題、今後の方向性など考えさせられることが多方面にありました。</p> <p>又、研修会や先進地視察など、学ぶ機会も作って戴き、大変勉強になり有難うございました。</p>

委員名等	感想
	<p>今回、まちづくり研究会に参加させて頂いて、まず感じたのが長いと思っていた任期の2年ですが、終わりに近づくと、すごく短く感じられ時間が足りないと思う2年間でした。</p> <p>食とイベントをテーマにした、1班を選ばせてもらい、その班長までやらせてもらいましたが、1班のみなさんや監事さんには、大変ご苦勞をかけ、助けていただきました。1班の成果は当初考えていたようなところまでは達していませんが、今後この様な活動が発展していく事を願っています。</p>
<p>きのした ひろあき 木下 浩明 1班 班長</p>	<p>最後にお世話になった、市民協働課の皆さん、まち研の皆さん、協力していただいた皆さん、本当にありがとうございました。</p>
	<p>まち研の活動を振り返ってみると、あっという間の2年間であり、あまり参加できなかったと思うのが私の感想です。</p> <p>しかし、まち研に参加した事によって他の委員と出会えたこと、小矢部市のことを色々と考えたことは、私自身有意義な活動だったと思います。</p> <p>今後、「まち研」での活動をいかし、自分なりに小矢部市を盛り上げたいと思います。</p>
<p>にしむら てつや 西村 哲也 1班</p>	
	<p>「小矢部市まちづくり研究会」という響きに魅力と不安を抱えての参加でしたが、活動を通して小矢部市のこと、小矢部市のために情熱をもって活動されている方々を知ることができ、大変勉強になりました。小矢部市は立地においても、農畜産においても恵まれたまちだと思います。次世代に「活気ある住みよいまち・小矢部」を繋ぐためにも、今後も小矢部市に関心を持ち、身近なことから参加、発信していきたいと思います。研究会メンバーや監事、市民協働課の皆さまに支えられながら、有意義な2年間の活動ができたことに心より感謝申し上げます。</p>
<p>むらにし 村西 みどり 1班</p>	
	<p>まちづくりという奥深い課題に向き合い学んでいくうちに、全ての市民に関わりのあることであり、誰にでも出来ることに気がきました。</p> <p>町を知り関心を持つこと。その意識を一人でも多くの人と共有し輪を広げていくこと。そして皆で作りに上げ、次に繋げることが重要です。</p> <p>家族、地域、やがて町全体を笑顔溢れるすばらしい社会にするための行動。それがまちづくりだと考えます。スタートは自分が変わることに。</p>
<p>たけべ よしこ 武部 佳子 2班</p>	<p>市民と行政が共に学ぶ素晴らしい研究会です。一人でも多くの市民が良いスタートを切れるよう、今後も継続されることを願います。</p> <p>出逢いとご縁を頂き感謝いたします。</p>

委員名等	感想
	<p>2年間を振り返ってみると、あっという間だったというのが実感です。</p> <p>小矢部の今後について、各々が純粋な気持ちで考え、話し合い、そして行動を起こすことで、少しずつ変化が起きるものと信じています。</p> <p>皆さんと貴重な時間を共有できたことに感謝します。ありがとうございました。</p>
<p>たかた こういち 高田 康一</p> <p>2班</p>	
	<p>やるからには斬新な提案をしたいと望みましたが、暗闇を右往左往するばかりで自分の力不足を感じました。しかし、班長、座長のリーダーシップと2班の皆さんの協調性、団結力にのせられて報告会の日を迎えることができました。</p> <p>この2年間まち研で出会ったすべての皆さんに感謝し、これからはまちづくり研究会のサポーターとなり、ふるさと“おやべ”のために力をあわせていきたいと思います。</p>
<p>の と ひろし 能登 啓之</p> <p>2班</p>	
	<p>定住人口の減少に関心を持ち小矢部市まちづくり研究会に応募し、2班のメンバーとして「定住促進」と「PR」について研究してきました。</p> <p>まち研委員のみなさんと一緒にまちづくりについて考えることで、いろいろな思いや考えを聞くことができ、まちづくりに対する考えを深めることができました。まち研での2年間は、貴重な経験でした。</p> <p>今後は、市職員として、市民として、まち研での経験をいかし小矢部市のまちづくりに貢献していきたいと思います。</p>
<p>なかがわ としあき 中川 利昭</p> <p>2班</p>	
	<p>この2年間、すごい方々の間に挟まれて、ただただ居るだけのよう存在でしたが、参加者の皆さんのまちづくりに対する熱い気持ちが感じられて非常に刺激的で有意義な時間が過ごせました。</p> <p>まち研の在り方について、ただまちづくりについて研究するだけの会にするのか、それとも、まちづくりを実際に行う会にするのか議論になったのもいい思い出です。</p> <p>このような場に参加させてもらえたことに感謝しています。そしてこの経験を無駄にすることなく、今後もまちづくりに真摯に向き合っていきたいと思います。</p>
<p>まつだ みつひろ 松田 充弘</p> <p>2班</p>	

委員名等	感想
	<p>任期途中で出産等のため、活動に参加できなくなり申し訳ありませんでした。活動を通して、小矢部の様々な魅力に気がつけたこと、小矢部をよりよくしたいと熱意を持って活動しておられる方々と出会えたことが、私にとって何よりの収穫だったと思います。このような機会をいただき、ありがとうございました。</p>
<p>あおやま ちえみ 青山 千恵美 (旧姓：高嶋) 2班</p>	
	<p>前々から、自分で調査をして、その結果を基にした提案をしてみたいと思っていました。まち研で同じような意思を持つ方々と出会えてよかったです。また、突然のインタビュー依頼に快く応じてくださり、貴重な時間を割いてくださった皆さま、本当にありがとうございました。これからも、「プラスワン」の工夫をし、「オンリーワン」のまちをつくる方法について考えを深めていこうと思います。</p>
<p>まつだ ゆかり 松田 友加里 (旧姓：小田) 2班 班長</p>	
	<p>まち研では小矢部のPRについて考えたいと思っていましたが、具体的な案を出すとなると難しく、「私に何ができるのかな？」と悩んだこともありました。しかし、まち研の皆さんとじっくり話をしたり小矢部について調べていく中で、新たな小矢部の魅力を知ったり、「田んぼアート」について皆さんと考えを深めていくことができました。自分たちの住むまち“小矢部”が大好き！と市民が誇れるまちになるといいなと思います。最後に、このようなまち研のメンバーとして活動できる機会を与えてくださり、ありがとうございました。</p>
<p>おく ゆかり 奥 由香理 2班</p>	
	<p>近年、B級グルメや映画ロケ地などで地方の魅力が日本中に広まってきている。一視聴者としてその情報を知る度、「行ってみたい！」「食べてみたい！」とその地域の魅力にとりつかれた。小矢部市もそうなるといいという簡単な思いでまち研に参加した。しかし、いざ会議に参加してみると、自分の小矢部愛の薄さを痛感…そして、企画運営の難しさに悩まされた。自分に何ができるのだろうと…。みなさんに助けていただき、大プロジェクトの進め方を勉強させていただきました。力になれず申し訳ないです。</p>
<p>かんだ はるか 神田 春佳 1班</p>	

委員名等	感想
	<p>ご縁があり、2期生・3期生幹事として4年間にわたり活動させて頂きましたことに感謝。そして、活動を通して小矢部市のまちづくりについて議論できたことが何よりもよかったと思っております。また、一人一人の活動が集まることによってより大きな動きになることも実感できました。ありがとうございました。</p>
<p>よしうら ひであき 義浦 英昭</p> <p>OB 会員（市民）</p>	
	<p>二期生として2年間、三期生幹事として2年間活動させていただき、大変感謝しています。幹事としては、ほとんど力になりませんが、三期生の方の研究・提案は大変素晴らしいものであり、ここに積み上げるまでのご苦労を思うと、頭の下がる思いです。</p> <p>この成果が、いずれ小矢部市活性化の切り札的なものになると、期待をしております。</p> <p>2年間どうもありがとうございました。</p>
<p>きた よしき 北 喜樹</p> <p>OB 会員（市職員）</p>	

## 資料1

## 小矢部市まちづくり研究会(第3期生)分科会活動実績

平成22年度(1年目)

## 第1班

回数	日時	場所	内容
1	9/7(火) 19:00	市役所 501会議室	今後の運営方法等について (第3回全体会の中で行った)
2	9/29(水) 19:00	市役所 501会議室	食のコンテストについて シフォンケーキプロジェクトなど
3	11/24(水) 19:00	サポートセンター	視察研修の報告会
4	12/10(金) 19:00	越前	今後の活動について 懇親会
5	1/18(火) 19:30	サポートセンター	今後の活動について(テーマの修正)
6	2/8(火) 19:30	サポートセンター	メルヘンスイーツプロジェクトについて
7	2/21(月) 19:30	サポートセンター	メルヘンスイーツプロジェクトについて 中間報告会について
8	3/17(木) 19:30	サポートセンター	メルヘンスイーツプロジェクト 中間報告会について
9	3/22(火) 19:30	サポートセンター	中間報告会の内容について

## 第2班

回数	日時	場所	内容
1	9/7(火) 19:00	市役所 501会議室	今後の運営方法等について (第3回全体会の中で行った)
2	9/24(金) 19:00	市役所 401会議室	まち研で取り組みたいことについて
3	10/14(木) 19:00	市役所 502会議室	まちづくり成功事例の学習
4	11/2(火) 19:00	市役所 401会議室	視察先についての学習
5	11/16(火) 19:00	市役所 501会議室	今後の方向性について(視察研修を終えて)
6	12/2(木) 19:00	サポートセンター	これまでの議論を踏まえての各自の意向
7	12/17(金) 18:00	市役所 502会議室	定住促進について 組織づくりについて
8	1/11(火) 19:00	市役所 501会議室	今後の方向性(テーマの統一)
9	1/19(水) 19:00	市役所 501会議室	テーマ設定、今後の方向性について
10	2/10(木) 19:00	市役所 501会議室	各種意見交換
11	2/23(水) 19:00	市役所 501会議室	中間報告の形式等について
12	3/9(水) 19:00	市役所 501会議室	4つの案の具体化と中間発表の役割分担
13	3/22(火) 19:00	サポートセンター	中間報告、今後の話し合いについて

平成23年度(2年目)

第1班

回数	日時	場所	内容
1	4/15(金) 19:30	サポートセンター	メルヘンスイーツプロジェクトの概要を再検討
2	4/26(火) 19:30	サポートセンター	火牛祭りにおけるグルメ通りの説明と参加要請
3	6/9(木) 19:30	サポートセンター	グルメ通り参加を含めた今後の予定修正
4	6/13(月) 15:00	ホリエステティック ビューティ小矢部	メルヘンスイーツプロジェクトの概要を修正
5	7/28(木) 19:30	サポートセンター	現状の整理 今後の方向性
6	7/29(金) 19:30	サポートセンター	分科会の立て直しについて 今後の取組について
7	8/2(火) 19:30	サポートセンター	今後のスケジュールについて
8	8/3(水) 19:30	サポートセンター	役員会内容の報告、先進地視察研修について 今後のスケジュールについて
9	8/18(水) 19:30	サポートセンター	源平火牛まつりでの事前調査結果を受けての、本調査の実施計画 調査結果を踏まえた次のステップの実施
10	8/22(月) 19:30	アクアフレスカ	本調査の実施計画について
11	9/8(木) 19:30	サポートセンター	メルヘンスイーツプロジェクトに係るアンケートについて
12	11/2(水) 19:30	サポートセンター	菓子製造・販売店と飲食店へのアンケート調査結果のとりまとめについて
13	2/1(水) 19:30	サポートセンター	研究報告書の内容について
14	2/27(月) 19:30	サポートセンター	研究報告書の内容について
15	2/29(水) 19:30	サポートセンター	研究報告書の内容及び発表方法について



第2班

回数	日時	場所	内容
1	4/14(木) 19:00	市役所 501会議室	事務局新任挨拶、ポータルサイトについて 全体的なストーリーについて
2	5/31(火) 19:30	サポートセンター	ポータルサイトに関して、田んぼアート体験プランに関して 駅からの交通網に関して
3	6/21(火) 19:30	市役所 501会議室	ポータルサイト案についての意見、田んぼアートについての意見 田んぼアートと祭り体験について、体験型メニューの充実について 一棟貸し宿泊施設について 放課後児童育成クラブと地域住民との交流による地域活性化について
4	7/12(火) 19:30	サポートセンター	ポータルサイト案についての意見、田んぼアートについての意見 田んぼアートを実行する上での課題の絞り出し 家族でラブラブメルヘンStay体験プログラムについて 小矢部市教育特区による地域活性化について
5	8/4(木) 19:30	サポートセンター	視察についての希望日及び希望地 各自より現時点の研究内容報告
6	9/1(木) 19:30	サポートセンター	田んぼアートについて ポータルサイトについて
7	9/27(火) 19:30	サポートセンター	先進地視察について 研究進捗状況報告
8	11/1(火) 19:30	サポートセンター	最終報告する内容について
9	12/6(火) 19:30	サポートセンター	最終報告する内容 (田んぼアート、ポータルサイト、まちなか居住計画、市民農園・教育)
10	1/19(木) 19:30	サポートセンター	最終報告する内容 (まちなか居住計画、田んぼアート(+市民農園)、ポータルサイト)
11	2/2(金) 19:30	サポートセンター	最終報告する内容について 報告書のタイトル「プラスワンでオンリーワン」
12	2/13(月) 19:30	サポートセンター	最終報告する内容(まちなか居住計画、田んぼアート、ポータルサイト) 報告書形式は、研究概要・第一部・第二部・第三部
13	3/1(木) 19:30	サポートセンター	報告会の発表方法について (パワーポイントの構成・取りまとめ等について)

## 先進地視察研修報告(平成23年度実施分)

## 1 日時

平成23年10月15日(土)6時58分から18時44分まで(市役所前駐車場集合・解散)

## 2 視察先

(1) JA中野市農産物産館オランチェ(長野県中野市草間 1543-5)

電話:0269-23-5595、URL:<http://www.city.nakano.nagano.jp/agriculture/sale/oranche.htm>

・地元農産物を活かした地域活性化の取組

(2) かんてんぱぱガーデン(長野県伊那市西春近木裏原 10695-1)

電話:0265-78-2002、URL:<http://www.kantenpp.co.jp/garden/index.html>

・寒天を使用した菓子等の製造の取組

## 3 参加者

委員	野手貢、岩田千波、木下浩明、村西みどり、高田康一、能登啓之、松田充弘、 奥由香理、義浦英昭
事務局	長太一進

計10人

## 4 行程(マイクロバスにて移動)

時間	内容
6:58	市役所発
	〔能越・北陸・上信越自動車道経由〕
9:46~10:26	JA中野市農産物産館オランチェ
	〔上信越・長野・中央自動車道経由〕
12:08~14:08	かんてんぱぱガーデン(各自昼食)
	〔中央・東海環状・東海北陸・能越自動車道経由〕
18:44	市役所着

## 5 各委員の感想

### (1) JA中野市農産物産館オランチェ



#### 野手委員

- ・これまでは中野市＝馬肉というイメージしかなかったが、先ずはその集客力に驚いた。
- ・長野市や小布施町等の近隣市町村と比較すると 知名度が落ちる中野市にあって、農産品によってあれほど集客が見込めるのかと感じた。
- ・ほとんどの商品が 100 円という割には品物も綺麗で、その価格の維持、並びに商品の買い上げシステム!?(農家とのバックアップ面も含めて)の話も聞いてみたい気がした。

#### 岩田委員

- ・『食でまちおこし』を研究テーマに掲げる1班の委員として、『年間実績 5 億円であるオランチェ』は、ぜひ現地に出向いてみたいと思わせる魅力的な視察先の1つでした。
- ・スーパー並みの売り場には、『新鮮・低価格・品揃え豊富』な商品がズラリと陳列。
- ・店内はバーゲンセールのような混雑ぶりで、当然レジにも大行列が…。①新鮮(野菜は朝取り)②低価格(100 円コーナーの創設)③豊富な品揃え(商品が多種多様)など、仕掛け人のコンセプトが明確であることが、消費者の支持獲得へと繋がり、それがまちおこしへと広がっていく1つの要因であることを、まさに実感させられる視察先でありました。

#### 木下委員

- ・地元の農家とJAが手を組んで、産地直売施設を運営しているのは全国に沢山あるのですが、ここの素晴らしいところが二点あるように感じました。
  - ①登録してあれば、小規模農家の家庭菜園からでも出荷している
  - ②ワンコイン商品(100 円)をメインにして、客の購買意欲を引き出している。



#### 村西委員

- ・午前 10 時頃到着した時には、駐車場は満車。店頭には元気な好青年達が試食&販売。
- ・入店すると人で溢れ、レジは左右3台ずつが長蛇の列……すごい賑わいでした。
- ・商品は 100 円を基本に、品質&鮮度の良い野菜が沢山。目新しい物はないにしても、日々の食卓にのぼる野菜が市価より安く買えるのは、本当に魅力的です。

- ・中央後方にイートインコーナー……？と思って職員の方に何うと、無料でお味噌汁を振る舞っているとのこと。「今日は、きのこたっぷりお味噌汁で美味しいですから、是非召し上がっていただきます！」と笑顔で薦められました。時間の都合でいただけなかったのが残念です。
- ・健康ブームの後押しもありますが、品質&鮮度の良い野菜や加工品が安価で買えれば、おのずと「買い物目的」の人達が集まるのは必然だと思いました。



#### 高田委員

- ・非常に多くの人で賑わっていた印象がある。
  - ・さほど広くない手狭な感じが、賑わっているように感じさせるのかもしれない。
  - ・なにより、高速道路インターチェンジの傍という立地に優位性があると感じた。
  - ・100円という値段も魅力だが、新鮮さやボリュームには値段以上のインパクトがあったように思う。
- ・直売所という誰でも出品できるようなイメージがあるが、オランチェへの出品は登録農家のみができる仕組みとのこと。これは、購入するお客さんにとっても安心だし、登録農家さんにとっても品質のよいものを出品しなければいけないという意識の向上(責任感)につながっているように思う。(現に、他では買えないような品揃えであった。)

#### 能登委員

- ・土曜日の午前10時前に到着したが、人の混み具合に驚いた。県外ナンバーの乗用車も多数駐車しており、運営開始から15年の間に値段(100円)、品数、品質の評判もよく集客力があるのだと感じた。
- ・試食、調理方法の説明など係員の皆さんの接客もよいが、野菜、果物といった生鮮品の種類が豊富なこと、地元中野の特産物の物量が多いことから購買意欲が沸くのだと感じる。
- ・温泉、スキー場など観光客の交通アクセス面で、好立地であることも重要である。



#### 奥委員

- ・農業振興と消費者に安全でおいしい生産物を提供することや、消費者との交流を目的として設置されたオランチェ。長野の名産品であるえのきを始めとするきのこ類やりんごなどの果物、他にもいろいろな種類の新鮮な農産物や加工品が販売され、県内外の客で賑わっていた。消費者から見ると、100円という分かりやすい値段設定とお得感が魅力だと思う。

- ・小矢部でも道の駅他、何箇所かで農産物が販売されているので、100 円均一を取り入れてみてもいいのではと思った。また「オランチェ」という名前も変わっている。“おらんちへこらっしゃい”という方言から来ているようで、そのような親しみやすい名前もいいなと感じた。
- ・りんごを販売している方が積極的に客に声をかけたり、ハッピーを着た会員の方が店内にいたり  
と客と交流を図り、活気付いた雰囲気も道の駅などにあれば、もっと元気で人が集まる場所になるのではないかと思う。

#### 松田 充弘 委員

- ・オランチェは、新鮮な地元産の農産物が安価で手に入るのが大きな魅力であると感じた。
- ・販売している野菜は、おそらく形が悪いなどのB級品と思われるが、それを差し引いても市価のおよそ半値で買えるのが大きな魅力である。規模もスーパーの野菜売場よりも大きいぐらいの規模なので、品揃えが豊富であるのが消費者にとっても魅力を感じる点であろう。
- ・小矢部においても道の駅が同様の役割を担っているが、野菜を大規模に生産している農家が少ないため、規模の点や価格の点ではオランチェには敵わない。

#### 義浦 委員

- ・一番の驚きは、人の多さです。中へ入って納得。100 円市コーナーという手頃さが、人気の高さであった。また、安心・安全で鮮度抜群であることにびっくりしました。会員が 500 名を超えていると知り、これも納得。大変参考になりましたが、これを小矢部ですればどうなるのかな？ 検討してみたいと思います。

## (2) かんてんぱぱガーデン

#### 野手 委員

- ・周囲に何も無い環境にあって、一企業があれ程の施設を維持出来ていることに驚いた。また「寒天草＝海」というイメージを持っていたが、山の中でもその展開をしていけるところに興味を抱いた。
- ・寒天業だけでなく、美術や庭を通じた文化貢献に、経営者の趣味なのか、それとも公の精神なのか、そのどちらもなのか、それらも踏まえて伊那食品工業の経営者の話を聞いてみたい気がした。





#### 岩田委員

・もともとは『働く人々のために快適な職場を…』が目的だったにもかかわらず、環境の良さ、味の良さ、商品の良さに、観光客が思いがけず訪れ、今や伊那市の人気観光スポットといわれる、かんでんぱぱガーデン。コンセプトは『癒しの空間』。ショップ、パビリオン、レストラン…あらゆる場所が心地よく、寒天メーカーにうまくマッチしたコンセプトに、説得力を感じました。

- ・『寒天レストラン さつき亭』では、寒天がもつ色々な特徴をうまく生かし、そして他では味わうことのできない寒天料理の数々を堪能。
- ・もう一度足を運びたいくなる空間であり、『オンリーワン』の力強さを魅せ付けられた視察先でありました。

#### 木下委員

- ・民間の資本が入り、「かんでん」をメインテーマにしたテーマパークの様に見えました。
- ・色々メディアを利用し PR している様子は伺え、家族連れ、首都圏からの個人観光客、会社の旅行のようなツアー客、何かの試合帰りの学生の団体、バイクツーリングの人たち等、多種多様なお客さんが居たのには驚きました。

#### 村西委員

- ・企業理念の素晴らしい企業だと思いました。企業施設と地域自然との調和。社員と地域住民の和。来客者へのホスピタリティ。健康への啓発活動。美術館やギャラリー等の文化事業……等々、素晴らしいと思いました。

#### 高田委員

- ・寒天は海藻が原料であるのに、海に接していない長野県で加工していることに驚いた。
- ・近年の健康ブームやヘルシー志向に合わせて、多くの商品が開発・販売されていた。
- ・かんでんぱぱガーデンの工場等がある高原と、寒天のヘルシーなイメージが合っていた印象がある。(環境のよい場所で加工をすることで、さらにより印象を与えている。)
- ・交通上、至便な土地ではないように思うが、かんでんぱぱガーデン商品のブランドイメージが人を呼び、多くの人を訪れていた。



### 能登委員

- ・寒天の国内市場のシェアは約 80%、世界では 15%の会社が 3 万坪の広大な敷地を「かんでんぱぱガーデン」と名付け、寒天レストラン、茶房、輸入雑貨店を設置している。
- ・自社の通信販売及び、全国 13 か所の営業所での販売を主とし、直営のカフェ併設アンテナショップとして、東京、大阪、名古屋、福岡で「かんでんぱぱショップ」を展開し、大手の流通ルートを使わないのが特長である。



### 奥委員

- ・現地に着いて歩いていると、なんてきれいで手入れの行き届いた庭園なのだろうと感じた。天気の良い日にはきっと歩いているだけで気持ちのよい場所だろうと思う。またいろいろな施設を作り、観光客が立ち寄りたいたいと感じる場を作ったことや、「かんでん」だけで、こんなにやくかんでんやスープ、ゼリーなどなど……本当にたくさんの種類の商品がショップにはあり、バリエーションの豊富さなどもすごいなと思った。商品を味わえる「かんでんレストラン」も、商品の売上げを伸ばすために一役買っていると思った。
- ・今、2班で「田んぼアート」について考えている。この施設を見習い、タワーの展望台で田んぼアートを見て、その場で使用されている米やそれを使った加工品や土産品などを販売したりと、ここにしかないものを販売すれば付加価値も出て魅力も増すのではないかと。話題になれば、タワーの客も増える。

### 松田充弘委員

- ・かんでんぱぱガーデンは、本来、製造業であるかんでんぱぱが工場敷地を拡張して、公園機能を持たせ、その中にレストランや自社製品の売店などを設けて、製造業以外でも利益を出す仕組みを持たせている。
- ・食事もおいしく、公園も美しかった。寒天商品は少々高かったが、つい勢いで購入してしまった。
- ・それなりに儲かっているのだろうと感じた。加えて企業がこういう施設を持つことで、企業イメージも大きく上がるだろう。



### 義浦委員

- ・ガーデンの中に、すべてが網羅されていることに感動しました。工場・ショップ・レストラン・ギャラリーと1日ゆったりと過ごせる雰囲気でありました。将来、このような施設ができるといいな！と思っております。

(3) その他(全体を振り返って等)

**野手委員**

- ・前回と大きく異なり観光的な研修となった為に、気持ちの面ではかなり楽に参加させていただきましたが、やはり先方との話を聞かせていただくなど、双方向での話し合いの場があれば、尚更良かったのかなとも感じます。

**岩田委員**

- ・3月の最終報告に向けても、大変参考になる視察旅行でありました。(えのき茸・葡萄の生産量日本一を誇る中野市。日本初の寒天レストランプロデュースに至った伊那食品。)
- ・小矢部市でも、地元物産を生かした全国一を目指せる、他にない特産物製作の機会があれば、微力ではありますが、料理研究者として取り組んで見たいと思いました。
- ・今回は各施設に訪れる客の立場で行ってきたのですが、できれば、施設の職員に苦労話や良かった話などを聞きたかった。

**木下委員**

- ・今回の様に、日帰り研修もなかなか良いと感じました。

**村西委員**

- ・今回は日帰り、自分たちで視察地を見学してきましたが、やはり各職員の方達から今までの経緯や皆さんの士気などを伺いたかったです。
- ・見て感じることも大事ですが、色々とお話を伺ってもっと勉強したいと思いました。

**高田委員**

- ・種類の異なる「にぎわい」の作り方が見られて良かったと思います。
  - ①「交通至便のよい立地」+「品質のよい農産物」 → にぎわい
  - ②「他では購入できない(希少性)」+「ブランドイメージ」 → にぎわい
- ・雨も大したことがなくてよかったです。

**能登委員**

- ・勝手ながら、小矢部の道の駅周辺道路と中野のオランジェを平成 22 年度道路交通センサスで交通量の比較をしてみると、小矢部の交通量の方が IC、主要道ともに多いことから、同様な手法で事業を始めれば、成功する可能性はあるのではないかと期待してしまっ



#### 奥委員

- ・今回の視察では、その土地の「今あるもの」を生かして“人の集まる場を作る”工夫の仕方をいろいろと見させていただいたように思う。組合の会員で協力することで新しい販売方法を考え出したり、「かんでん」という一つのものからアイデアを広げていったりなど、勉強になる点がたくさんあった。その土地にあるものを生かすことで無理なく、また、その土地の雰囲気にあった良さをPRできるのではないかと感じた。そしてすぐに結果を求めるのではなく、小さなことからでも実行し、試行錯誤を繰り返しながら良いものを作っていく(リニューアルする)していくことも大切だと感じた。
- ・小矢部市においても稲作や農業が盛んなことやメルヘン建築、クロスランドなど、今あるものを生かして工夫し、いろいろと試しながら「まちづくり」を進めていくことができればよいのではないかと感じた。そうすることで小矢部市の魅力をPRしていければと思う。

#### 松田 充弘 委員

- ・2か所とも楽しませていただいた。オランジェもかんでんぱぱも、まちに特色と活力を与えるのに一役買っているであろう。
- ・私の中で、まちづくりは行政や市民団体が行うものというイメージが出来上がってしまっていたが、今回の様な、一企業でも十分にまちづくりが出来るのだと感じた。今後、まちづくりを考える上での糧としたい。

#### 義浦委員

- ・ご縁があり、2期生・3期生幹事として4年間にわたり活動させて頂きましたことに感謝。そして、活動を通して小矢部市のまちづくりについて議論できたことが、何よりもよかったと思っております。また、一人一人の活動が集まることによってより大きな動きになることも実感できました。ありがとうございました。

平成 24 年 3 月 発行

お問い合わせ先

932-8611 富山県小矢部市本町1番1号

小矢部市民生部市民協働課(小矢部市まちづくり研究会事務局)

電話 0766-67-1760 FAX 0766-67-5520